

「ゆめファーム全農SAGA」が始動

国内最大規模のキュウリの多収実証施設

耕種総合対策部



内覧会で担当職員から説明を受ける秀島敏行佐賀市長(中央手前)と野口専務(右)



開所に伴う神事



土耕のキュウリ栽培区

開所式には全農、JAさが、佐賀市などから43人が参加しました。施主あいさつで全農の野口専務は「実証された情報や技術で全国の生産者にご提案し、農家所得の向上を支援したい」と意気込みを語りました。

耕区と養液区を設け、それぞれの収量やコストなどの栽培データを蓄積・分析します。



ゆめファーム全農は、施設園芸における大規模多収技術の確立・普及や人材育成に向け、全農自らが施設を運営する営農実証プロジェクトです。「ゆめファーム全農SAGA」は、

栃木県のトマト栽培施設「ゆめファーム全農とちぎ」、高知県のナス栽培施設「ゆめファーム全農こうち」に続くプロジェクト3例目の施設となります。「ゆめファーム全農SAGA」は、佐賀市と連携し、隣接する清掃工場で発生する排熱蒸気と炭酸ガスを活用する資源循環型農業を実証します。また、土

全農は佐賀市に設置した「ゆめファーム全農SAGA」の運営開始に伴い、1月24日に現地で開所式を行いました。

「にいがた甘酒」2種を発売

新潟の「米」「農産物」を使った甘酒が新登場

新潟県本部

【商品概要】

商品名:「にいがた甘酒 越後姫(イチゴ味)」「にいがた甘酒 新潟茶豆(枝豆味)」

内容量:350ml

参考価格:348円(税別)

発売日:令和2年1月27日

販売店舗:新潟県内のJA直売所、Aコープ店舗



「にいがた甘酒」の越後姫(左)と新潟茶豆

新潟県内のJA直売所や、Aコープ店舗などで販売しています。

主原料である米はもちろんのこと、フレーバーのイチゴは「越後姫」、枝豆は「新潟茶豆」と新潟の特産品を使用しており、県産にとことんこだわった甘酒です。

新潟県本部は1月27日、「にいがた甘酒 越後姫(イチゴ味)」「同 新潟茶豆(枝豆味)」を発売しました。

News!

第42回えひめみかん祭りを開催

みかん早むき大会や「みかん餅つき」も

愛媛県本部



数多くのかんきつを試食販売



子どもたちもみかん早むきに挑戦

その他、みかん早むき大会やみかんを丸ごと使った「みかん餅つき」などを行い、愛媛のPRしました。

会場では、「来て・見て・食べて！愛媛みかんオールスター」をテーマに、数多くのかんきつ、加工品の試食販売を実施しました。そ

愛媛県本部、愛媛県果樹同志会、愛媛県などは1月18、19日、松山市のいよてつ高島屋で、「第42回えひめみかん祭り」を開きました。

News!

県産銘柄豚肉「やまゆりポーク」を小学校に寄贈

生産者や県本部職員が特別授業を実施

神奈川県本部



生産者の説明を熱心に聞く児童たち



生産者と交流しながら「やまゆりポーク」のどんかつを味わう児童たち

使ったとんかつが登場し、児童たちは生産者と交流しながら、おいしそうに頬張っていました。

授業に参加したのは5年生171人。生産者や神奈川県本部の職員が講師となって、豚肉が食卓に届くまでの過程や「やまゆりポーク」の特徴などを伝えました。給食には「やまゆりポーク」を

やまゆりポーク生産者協議会は1月27日、地域貢献活動の一環として、横浜市立東台小学校へ県産銘柄豚肉「やまゆりポーク」を寄贈し、特別授業を行いました。

News!

「とくしま花まつり」を開催

高校生が花生けを競うイベントも

徳島県本部



「高校生花いけバトル」決勝戦の審査結果発表。左は優勝した徳島県立城東高等学校2年生チーム「すずらん」

5分間の制限時間内で花生けを競う「高校生花いけバトル」には、県内3高校から7チーム・14人が参加。観客も参加した審査の結果、徳島県立城東高校2年生チーム「すずらん」が優勝しました。また、同会場では「第15回洋らんフェスティバル」も開かれ、フラワーアレンジメント教室や花のPR販売が行われました。

徳島県本部は1月25、26日、徳島県などと共催で、3回目となる「とくしま花まつり」を徳島市のイオンモール徳島で開催しました。

TODAY'S AGRI NEWS」

自己改革アピール

JA全農がTOKYO FMをキー局に全国38局で提供するラジオ番組「TODAY'S AGRI NEWS」で、JA役員（組合長・理事長ら）の出演人数が2月17日の放送で200人に到達します。トップ自らが多彩な自己改革の取り組みをアピールし、農業、地域の活性化に果たすJAの役割を全国に発信しています。【広報・調査部】

「前へ前へ、全力農業」
毎朝250万人に発信

番組は2018年夏に始まり、月々金曜日の朝6時半から5分間放送、聴取者数は推定で約250万人に上ります。その日の日本農業新聞の中から注目の記事を紹介するコーナーと、全国各地のJA組合長らが、実践する自己改革の取り組みを語るコーナー「前へ前へ、全力農業」からなります。

「前へ前へ、全力農業」での組合長のコメントは、事前に電話で収録。それを月々金曜日まで日替わりで放送しています。出演人数は昨年5月に100人、そして今年2月17日の放送回で200人到達。全国でおよそ3割のJAが出演することとなりました。

新聞、ブログでも
トップ広報を積極展開

番組に出演したことを日本農業新聞やJAのブログで発信するなど、積極的にアピールいただいているJAもあります。

鳥取県のJA鳥取中央は、栗原隆政組合長が2019年5月に番組に出演したことを、日本農業新

前へ前へ、全力農業

生産者の所得向上を目指し、改革に取り組む挑戦者たち。

聞の記事で紹介。記事では、電話収録に応じる栗原組合長の写真とともに、組合長の番組でのコメントの内容を紹介。鳥取県の期待の米



電話取材を受ける栗原組合長

FM放送で「全力農業」

JA鳥取中央

栗原組合長が全国発信

組に出演し、同JAの自己改革の取り組みなどを情報発信した。JA全農が提供する「TODAY'S AGRI NEWS」の番組内のコーナー「前へ前へ、全力農業」に電話出演した。県内JAでは初の試み。番組内で、同JA4年目の取り組みとなる「JA鳥取中央・地方創生総合戦略」に基づき、梨の県オリジナル品種「新甘泉」の栽培面積の拡大や

JA鳥取中央の栗原隆政組合長はこのほど、エフエム東京が運営するラジオ番組「TODAY'S AGRI NEWS」の番組内のコーナー「前へ前へ、全力農業」に電話出演した。県内JAでは初の試み。番組内で、同JA4年目の取り組みとなる「JA鳥取中央・地方創生総合戦略」に基づき、梨の県オリジナル品種「新甘泉」の栽培面積の拡大や

JA鳥取中央の栗原隆政組合長は、「伝わる発信力を強化し、地域になくてはならないJAとして一丸となって取り組んでいく」と意気込みを全国へ発信した。番組は、7日午前6時34分からFM山陰でも放送される。

(鳥取中央)

の新品種「星空舞（ほしぞらまい）」の生産振興などに取り組んでいることに触れ、「伝わる発信力を強化」していく決意を発信しています。

日本農業新聞 2019年6月1日付

つあげ日記



記事日 2019.11.22

TOKYO FM 「前へ、前へ、全力農業」に出演

本日、JA津安芸「自己改革」について、電話で取材いただきました！



当JAでは、様々な自己改革を通じて、「農業ファースト」な農業の実現に取り組んでいます。その取り組みを幅広く訴求することで、農家の意欲向上ならびに消費者への「食」の安全・安心につながればと出演いたしました。

番組内の短い時間ですが、自己改革の一部を紹介しておりますので、ぜひお聞きください。

番組名：FM東京「TODAY'S AGRI NEWS」内「前へ、前へ、全力農業」
放送局：TOKYO FM系列JAPAN FM NETWORK加盟全国FM局（FM三重）
放送日時：11月28日（木）、12月5日（木） 午前6時30～35分

JA津安芸のブログ「つあげ日記」

「前へ前へ、全力農業」
出演JAの分布
(2月17日現在)

ラジオ番組「 JAトツプカ 200JAが出演

また、2019年11月に出演した三重県JA津安芸の落合浩美理事長も、JAのホームページに設けているブログ「つあげ日記」(<http://www.ja-tsuage.or.jp/staffblog/rij/>)で、「農家ファーストな農業」の実現を幅広く訴え、農家の意欲向上、消費者への「食の安全・安心につながればと考える



「前へ前へ、全力農業」の
制作を担うエフエム東京の
上野恭平ディレクター

1本の番組を作るために、毎回、1本の映画を作れるくらい、JAのことを調べます。「生産資材の価格を下げる」という取り組みだけを切り取っても、実現するまでの過程を聞けば、まるで、『プロジェクトX』です。あきらめるのか、それとも、突き進むのか……。担い手の人生を背負ったJAの決断一つ一つが、どんな小説よりワクワクする物語です。番組を作り終えるころには、そのJAの日本一のファンになっています。

15分と約束していた収録が、気がつけば、2時間を超えていたことも1度や2

度ではありません。「こっちにきて農業をやりようよ」と誘ってくれた組合長、「自宅の庭で取れたからさ」と食べきれない量のかんきつを送ってくれた組合長もいます。全国各地に、“実家”が増えた気持ちです。そうした温かいつながりは、農業だからこそだと思っています。

ラジオのリスナーから、日本の農業の担い手が出てきてほしいとの思いで、この番組を作り続けています。その目標の実現へ、「全力」で「農業」を支えている全国のJA組合長の声を今後も「全力」で発信していきます。

出演したと発信。番組内では、組合員のコスト削減へ農機のレンタル事業を展開していることなどを紹介しました。

多彩な自己改革 引き続き全国に

JAグループにとって、農業の振

興、地域の活性化に向けた取り組みを分かりやすく伝え、組合員をはじめ広く理解を得ていくことは引き続き重要な課題となっています。今後も毎朝、全国に届く「TODAY'S AGRI NEWS」「前へ前へ、全力農業」を通じて、各地のJAの自己改革の取り組みを発信していきます。

TODAY'S AGRI NEWSの概要



- 放送局:TOKYO FM、JFN系列のFM局 計38局
- 放送日時:月～金曜日のあさ6:30～6:35
- パーソナリティ:月～木曜日 鈴木健一さん(声優)、金曜日 山崎樹範さん(俳優)
- 番組ホームページ:<https://www.tfm.co.jp/agrinews/>(「前へ前へ、全力農業」の過去の放送回が視聴できます)



番組への出演希望など問い合わせは、JA全農広報・調査部広報企画課(TEL 03-6271-8055)まで。

農家の出荷調製作業軽減で 産地基盤強化へ

青果物パッキングセンター設置

岐阜県本部は、岐阜市内に「JA全農岐阜青果物パッキングセンター」を設置し、昨年9月2日から稼働を始めています。農家にとって負担の大きい出荷調製作業を受託することで、産地振興につなげています。

【岐阜県本部】

パッキングセンターの役割

この施設は夏ホウレンソウ、冬春イチゴ（岐阜県オリジナル品種「華かがり」）の2品目の袋・パック・段ボール詰めなど出荷調製作業を行います。また夏ホウレンソウは5月中旬～11月、イチゴ「華かがり」は12月～5月中旬と、施設が周年稼働することでパート従業員を年間確保。運営を岐阜県本部が行い、岐阜県JAビジネスサポート（株）へ作業委託しています。

取り組みの背景

夏ホウレンソウは、地域のパート労働力の減少や生産者の高齢化、新規就農者不足などが原因で2009年度の236万ケースをピークに、184万ケース（2019年度実績）まで減少。袋詰めするまでの出荷調製作業は手作業のため、農



稼働を始めた青果物パッキングセンター

家にとって負担が大きく、産地基盤弱体化の要因の一つとなっています。

一方、イチゴ「華かがり」は、2019年度の作付面積が129アール（前年対比139%）で年々面積が拡大。JAぎふ運営のパッキングセンターで共同選果・選別・パック詰めをしてきましたが、近年の作付面積拡大に伴い、新たなパッキングセンターが必要となっていました。

岐阜県本部は、パッキングセンターの活用で、農業分野の労働力不足解消と生産基盤の維持拡大に向けて必要なノウハウを蓄積し、産地振興に生かしていきます。



丹精込めて育てられた「華かがり」を丁寧にパック詰め



専用の段ボール資材に入れて出荷。2月現在、施設内はイチゴの甘い香りに包まれています



夏ホウレンソウの調製作業



整えられたホウレンソウを小分けして袋詰め

2019年10月に署名された日米FTA(貿易協定)は、米国をはじめとする世界各地の投資家たちにとって、大きな朗報をもたらした。

外来遺伝子を組み込む「遺伝子組み換え種子」について、農業と種子のセット売りで世界的ベストセラーとなったバイオ業界もその一つだ。今ではそこからさらに一

歩進み、DNAを切断し、狙った遺伝子の特定部位で変異を起こさせる「ゲノム編集」技術に注目が集まっている。特定箇所に組み込むまで何度も狙う必要がある「遺伝子組み換え」に比べ、「ゲノム編集」は大幅な所要時間とコスト削減を実現し、世界中で市場を拡大し続けているのだ。

2020年の大統領選挙に向けて、新時代のドル箱産業として花開いたこの二大技術を通して、大票田のバイオ業界が最大の利益を上



つつみ・みか 国際ジャーナリスト。国連、証券会社を経て現職。米国の政治、経済、医療、教育、食、農政などを取材。『ルポ貧困大国アメリカ』(岩波新書)で新書大賞・エッセイストクラブ賞。新刊に『日本が売られる』(幻冬舎新書)、『支配の構造』(SBC新書)

げられるよう、トランプ大統領は関係省庁への指示出しに余念がない。

2019年6月5日。USDA(米国農務省)は、新しい遺伝子組み換え作物の大半を、現行の規制対象から外すことを発表した。これによってさらに多くの遺伝子組み換え食物が規制なく市場に回るようになる。

6月11日。トランプ大統領は「ゲノム編集食品を含む遺伝子組み換え食品の規制見直し」の大統領令を発令、FDA(食品医薬局)、

低グルテンの小麦や黒くならないマッシュルーム、トランス脂肪酸を出さない大豆など、企業や投資家たちの夢は広がる一方だ。そして今、彼らに付度するトランプ大統領が狙いを定めているのが、他でもないここ日本である事を、一体どれほどの国民が気づいているだろうか?

アメリカ国内で加熱するゲノム編集とトランプ大統領の選挙戦にぴったりと寄り添うように、わが日本政府もまた、着々と準備を進めている。

農業、ビジネスという世界戦争 その2

特別寄稿

国際ジャーナリスト

堤 未果氏

USDA(農務省)、EPA(環境庁)の三大省庁に、6カ月以内に現在の規制を緩和するための対応を命じた。

2019年9月。厚労省と消費者庁が発表した、「ゲノム編集農水産物規制」は、遺伝子を挿入していないゲノム編集は安全だ、という立ち位置を明確に表す内容だった。

ゲノム編集食品に安全審査は不要とされ、10月1日から厚労省への届け出だけで販売許可が与えられる制度が始まった。届出は任意で、履行しなくても罰則はない。そもそも消費者庁が生産者販売者共に表示義務を課さない事を

決定したために、スーパーなどで消費者がゲノム編集食品を選別するのは難しいだろう。

政府は「表示義務を課さない」理由について、こう説明している。

「遺伝子の変異がゲノム編集由来か、品種改良由来かを判別できない」

だが本当にそうだろうか?

実は既に、フランスの国立農林水産業研究センター(INRA)から、ゲノム編集技術を施した農水産物判別法についての報告書が出ている。

日本政府とマスコミはこれを黙殺しているのだ。

米国大手のコルテバングリサイエンス社

が厚労省に届け出たゲノム編集トウモロコシは、間もなく日本に入ってくる。加工食品になれば、消費者はどこに入っているのか分からなくなり、国内市場は文字通り、「安全性が未知数」の輸入食料で占められてゆくだろう。遺伝子組み換え作物やBSE、農業や各種添加物と同じように、国を守る壁が崩され、日本国民の食の主権と選択肢、安全保障が確実に危機にさらされる。国が「予防原則」を軽視する政策を進めれば、恩恵を受け

るのはバイオ企業、後を追うのは製薬業界だ。「攻めの農業」の掛け声に目を奪われて、いつのまにか足元の土台が崩れていった、米国や南米諸国の轍を踏んではならない。

憂国の民ならこう言うはずだ。これを侵略と呼ぶはずして一体何を侵略と呼ぶのだろうか?と。残された時間はあまりない。10年、20年先の土や水、環境や地域産業、子どもたちのいのちと健康は、一体誰が守るのか?

「食と農」は、エゴで暴走する私たち人間を、もう一度原点に引き戻す貴い入り口だ。イデオロギーの違いを超えた、救国の決断と行動が求められている。

本稿は雑誌『表現者 クライテリオン』(啓文社書房)の連載「農は国の本なり」の第10回記事(2020年1月号)を、著者・出版社の承諾を得て要約掲載したものです。

「農業ビジネスという世界戦争 その1」の要約版はこちら
<https://www.zennoh-weekly.jp/wp/article/3252>

クライテリオン オフィシャルホームページ ● <https://the-criterion.jp/>

問い合わせ先: 啓文社書房

TEL ● 03(6709)8872 e-mail ● info@kei-bunsha.co.jp

東北の食材でカフェメニュー



専門学校とコラボし開発

全農東北プロジェクトでは、仙台市の仙台スイーツ&カフェ専門学校(三幸学園)と連携し、東北の食材をテーマにメニューを開発しました。

【耕種総合対策部・フードマーケット事業部】

同校の2年生約100人が授業の一環で考案したメニュー計18品の中から、試食・評価を経て選んだ3品を「 Grillみのる」「みのりカフェ」(エスパル仙台店)で2月3日~3月5日の間、提供しています。ぜひご賞味ください。

今回はメニュー開発に合わせて、生徒へ野菜の旬や官能検査について全農の職員が講義を行いました。来年度も引き続き生徒と連携してメニュー開発を行う他、生徒の農業実習も実施する予定です。



東北野菜入り濃厚鉄板ナポリタン(1280円、税抜き、 Grillみのるで提供)



蔵王チーズと宮城県産トマトのレアチーズケーキ(650円、税抜き、みのりカフェで提供)



宮城県産いちごのミルクパフロア(650円、税抜き、みのりカフェで提供)



三つのメニューをつかった専門学校の生徒たち



野菜の旬について講義する全農職員

全農 ZEN-NOH

COUNTDOWN JAPAN リスナープレゼント

毎週土曜日13時~ TOKYO FM系列38局ネット

2月22日放送のプレゼントは、鹿児島黒牛のすきやきセット(ロースとモモ各230g)を3名様に。畜産王国・鹿児島で育まれた極上の霜降り肉とヘルシーな赤身肉が楽しめます。

また、JAタウンギフトカード4500円分を1名様にプレゼントします。 【広報・調査部】



応募は番組ホームページで受付中です。



応募締め切りは2月22日の放送でランキング1位の曲が発表されるまでです。

こちらの商品はJAタウンからご購入いただけます。

JAタウン <https://www.ja-town.com/shop/c/c8601/>
(ショップ名: おいどんショップ鹿児島)



JA全農のインターネットショッピングモール
JAタウン ショップ紹介

JA全農かながわ

神奈川県寒川町の旭農園が栽培する「スイートピー」は、毎シーズンリピーターが続出する人気商品。県のオリジナル品種「リップルピーチ」や、涼しげな淡いブルー色をした同農園オリジナルの品種など、鮮やかな吹きかけ模様が特徴の5色ミックスです。

花言葉は「門出」「優しい思い出」。卒業式やホワイトデーの贈り物としてもおすすめです。柔らかなパステルカラーと甘い香りで、一足早い「春」を感じてみませんか? 30本以外に50本や100本の規格もあります。



ひと足早い春 スイートピー春色セット
30本入り.....3000円

ご注文は
こちらから



▶ JAタウンはこちらから <https://www.ja-town.com>
▶ お問い合わせは ☑ shop@ja-town1.com



『JA全農ウィークリー』の
ツイッターはこちら



私たち全農グループは、
生産者と消費者を 安心で結ぶ懸け橋
になります。